

Title	目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2024
Jtitle	メディア・コミュニケーション：慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media and communications research : annals of the Institute for Journalism, Media & Communication Studies). No.74 (2024. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20240300--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

メディア・コミュニケーション

74号 2024.3

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要

目次

特集：グローバリゼーションと持続可能なメディアのデザイン ——意識とモビリティーズ2	小川(西秋)葉子	1
「時間の社会学」と社会的時間批判 ——第96回日本社会学会大会テーマセッション報告を中心に	梅村麦生	9
社会は加速できない ——社会的システム理論と社会的加速理論の両立可能性について	高橋顕也	19
現在志向の若者たち？ ——見田宗介におけるコンサマトリー概念の三側面から	徳宮俊貴	29
生成 AI の利用実態と期待，生成物認識，受け入れ条件 橋元良明・大野志郎・堀川裕介・天野美穂子		37
ChatGPT の不適切利用の実態 篠田詩織・橋元良明		57
感染防止・外出自粛行動とメディア利用との関連 ——新型コロナウイルス5類感染症変更前後のパネルデータ分析 大野志郎・橋元良明		71
論文		
「Tagesschau-App」事件と2013年12月20日ケルン上級地方裁判所判決 杉原周治		81
報道被害における新たな規範の形成と定着 ——2002～3年の拉致被害者報道を事例に 尹 在彦		101
活動報告		113